



第13回ソフトテニス全国大学リーグ王座決定戦にて
(於 東京体育館)

先に述べたように大活躍の我が部であるが、部員たちは、決して入部当初から強かったわけではない。高校時代、全国的に名が知れていた選手もおらず、インターハイで上位に入ったわけでもない。毎日二時間たらずの練習のなかで、質の高い練習を心がけ、また本やビデオ等による研究を熱心に行うことで他校との差を補い、そして差をつけている。

まだまだ書き足りないことがたくさんあるが、一致団結をモットーに、広大ソフトテニス部の躍進はこれからも続くことを確信している。

(ひらた・じろう)

昨年の日本スポーツ界は、Jリーグに始まり、Jリーグに終わったといえる。老若男女を問わない「オーレ、オーレ」の大合唱。野球はつまらないといわれ、肩身の狭い思いをし、市民球場の空席を見て、少し胸が痛んだ。

しかし、四コマ目の授業が終わると、今日も、一人、二人と、真っ白なユニフォーム姿がフィールドに現れる。僕も、黒土とオイルを吸い込んで、少しツギの当たったグラブを手に、飛び出した。

上手、下手、経験の有無は別として、野球が好きで、野球がやりたい。やせるために入部した者もいるが、それが軟式野球部である。

もちろん、女子マネージャーもいる。美人だろう、たぶん。活動は、野球をする。ボーリング大会、新歓、追コン、合コン等の飲み会等々、多種多様である。

ちなみに、我が軟式野球部は、広島六大学リーグに所属しており、春、秋の二季にリーグ戦を行っている。成績はいたって優秀で、過去何回も優勝し

ている。広大の、体育会所属クラブで全国大会で活躍しているクラブはいくつかあるが、軟式野球部も頑張っていて、全国大会で準優勝が一度あり、平成四年度はベスト四に入っている。

くだらない話で残りのスペースがわずかになってしまった。とにかく、野球に興味がある学友の皆さん、「グラブとバットを持って飛び出そう!! プレイボール!!」。

(たにくち・たろう)



第15回全日本大学軟式野球選手権大会にて
(於 横浜スタジアム)

軟式庭球部

「飛躍の年」

法学部法学科二年 平田次郎

全国で大活躍

昨季の我が部の成績は、過去を見ても最高といえる。シーズン最初の三地区(九州・中国・四国)大会で幸先よく団体優勝。個人でも一ペアが三位につけた。また、中国リーグで三年連続で優勝し、全国大会へ出場。王座では二年連続で決勝へ進み、三位。去年の決勝進出がフロックでなかったことを

証明した。

さらに、昨季、チームの最大目標であった西日本学生選手権で団体三位、個人で一ペアが三位につけ、優勝こそ逃したものの、広大の名を全国に知らしめた。最近では、私立大の強豪が常に上位を占めるなかで、これらの成績は大健闘といえよう。

部員の素顔

軟式野球部

「青空の下、芝生の上で」

学校教育学部小学校教員養成課程四年 谷口太郎